沈黙という騒音

天窪　雪路

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
沈黙という騒音

【Ｎコード】
Ｎ８６６７Ｐ

【作者名】
天窪　雪路

【あらすじ】
運悪く僕の隣に、さきほどの若い女の子が立っていた。

何の理由もなかったが、視線がふと電光掲示板に向いた。ちょうど胸に溜まった煙草の煙を吐き出しながら、視線の先の真っ白な鳥に意識が働いた。鳩だ。太陽は既に完全に沈んでいたから、普段は少々子汚くすら感じられる鳩の躰の色が、夜の街の中で消費者金融の電光掲示板に照らされ、一際明るく見えた。

もう一度繰り返すが、別に電光掲示板が火花を散らしたり、鳩の羽音が聞こえたりしたわけではない。その方を見るのに何一つとしてきっかけは存在しなかったのだ。しかし、それからの鳩の動作は十分にその後の注目の理由をつくった。仲間の鳩を一羽も連れず、真っ直ぐに人工的な灯りに向かって羽ばたく彼の姿は、僕にとって十分な関心となった。

あと三十分もすれば、僕はこの街に住むろくでもない群衆とともにろくでもない電車に乗り、それからやはり旅先へと向かうろくでもない時間に身を委ねることになるのだ。

駅のホームで電車を待つ。あと八分で電車がやってくる。

景色の向こう側、つまり隣のホームの二人組の女の子がこちらを向いて携帯電話のカメラで撮影をしている。何か珍しい景色でもあるのかと周囲を見渡そうとしたその時、僕の後ろの方から若い女性の声がした。たぶん、高校生くらいの女の子だ。

「おいっ、ちょっと待てよ」

はっきりと聞こえたその怒号に、間違いなく群衆と僕は反応を示したが、誰も彼もが事なかれ主義の立場を取り、各々が携帯電話の画面を見つめたり、鞄の中を弄ったりし始めた。僕も群衆と同じように、手提げ鞄の中から文庫本の小説を取り出し、しおりを挟んでい

た頁を開いて何となくそこに並べられた文字列を眺めた。しかし、そうするのはカムフラージュであって、僕の五感の働きはしっかりと聴覚の働きに集中していた。

「分かってんだよ。こっちを撮ってるのは」

その女の子はそう続けると、再び携帯電話に耳を当てて相手の話を聞いているようだった。隣のホームの二人組の女の子のうち、髪の長い方が電話の相手のようだ。もう一人の女の子はその傍らでくすくすと笑っている様子だ。

「ふざけんなよ。絶対許さないから」

何度かの小さなやり取りの果てに、女の子はそう言って電話を切った。

女の子のやり取りに聞き耳を立てていた群衆と僕は気まずい空気に包まれるところだったが、そこで都合よく電車がやって来た。群衆と僕は再び事なかれ主義を決め込むと、やって来た電車に乗るという目的に従った。何ら違和感はない。しかし、わりと賑やかな混み具合の中、運悪く僕の隣に、さきほどの若い女の子が立っていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8667p/

沈黙という騒音

2011年1月20日02時28分発行